

落ち葉を使ってコラージュを

小さい頃、クレパス、マーカー、鉛筆と、とにかく書くものを手にすれば、好きなように自由に紙に軌跡を残して、「雨がザーザー」などと言っていたのに、なぜか5歳ごろになると、「できない」と言って絵を描くことに消極的になってしまう幼児を目にすることがあります。5歳は、できたものと、自分が表現したいと思っていたものとのギャップを認識できる段階になります。そのため「やりたかった（描きたかった）ことと違う」とってしまうのでしょうか。とりわけ、幼児期の早い段階から、「上手に～しないとイケない」と思わせるような厳しい環境が周りにあった場合、「上手にできないからやらない」になってしまいます。

落ち葉のコラージュは、こんな風に造形に消極的になっている幼児が、上手・下手ではなく、自分のやりたいように表現を楽しめるのでは？ と思って始めた活動です。自然の落ち葉や小枝などは、それ自体が素敵な自然の造形物です。そのような素材を使ってできた作品は、どれをとっても趣のあるものに仕上がります。そして、「できない」と言う子どももいません。



この活動には、**ここがポイントかなと思っている工夫点が2つあります。**

1つ目は、外で行うことです。写真のように、園庭にシートを敷いて作業する環境にします。最初にある程度の素材を集めて開始しますが、子ども達は興に乗ってくると、制作途中に「こんなのが欲しい」と新たな素材を求めるようになります。このような環境にしておくと、すぐに園庭を散策して探すことができます。作ったり探したりを繰り返しながら、だんだんに自分のやりたいことがはっきりしてくるようです。



2つ目は、自然物だけでなく、広告チラシも素材として用意することです。これは必要ならお使いくださいという素材です。自然物だけで構成する幼児もいますし、チラシを切り取って落ち葉と共に貼り付ける幼児もいます。チラシには、実際の具体物の写真があります。例えば、この写真のように、イチョウで作った動物が、お店（チラシの写真を利用）に行くなど、自然物で構成すると同時にリアルな「物」の写真を使うことで、ストーリー性のある自分の思いを表現しやすくなるように見えます。あるいは、チラシに載っているさまざまな具体物を眺めながら、自分の作りたいものがだんだん明確になっていくという様子も見られます。



秋のおだやかな日差しの中、子ども達は1時間近く、熱中して取り組んでいました。（文責：白石）

